

令和元年度(平成31年度) 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	南信州の新特産品「柿の果実酒」開発・普及プロジェクト
事業主体 (連絡先)	喬木村商工会 0265-33-2125
事業区分	(6)産業振興、雇用拡大 オ その他地域の特色、個性を活かした産業振興、雇用拡大に資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,716,486 円

事業内容

- ①商品名称を喬木村内へ募集し、考案者を喬木村総合文化祭で表彰。
- ②地元産柿から果実酒の試験醸造に専門知識をもつ商品化アドバイザーの助言を頂き完成。
- ③商談会や村関係の行事等で発表、試飲頂きアンケート調査を行った。
- ④成分分析を行い、評価が分かれる原因を解明。改良を進めている。
- ⑤新聞記事への掲載、ラジオ放送により新商品と事業取組みを紹介。
- ⑥柿農家よりこれまで未利用であった柿果皮を買い上げる取組みを行った。



【商品名称考案者の表彰

事業効果

①商品名称を村内へ募集したところ、延べ100案の応募があり、地元住民に関心と関りを持って頂いた。応募の中から2案を融合し、喬木村らしさを秘めた良いネーミング「柿和飲 鳩十の夢」に決定することができた。喬木村総合文化祭で披露とともに、多くの来場者の中で考案者2名を表彰することができた。

②南信州特産の柿を原料とする果実酒200ℓ完成させることができた。柿皮の特性「甘味と渋み」を生かした新たな活用法として誰も作ったことのない果実酒の完成を実現できた。試飲頂いた場所でアンケート用紙200枚以上回収できた。アンケート結果で嗜好の評価は分かれたが、100%地元産の新たな特産品として多くの場で披露・PRすることができた。

今後の取組み

- ①南信州・飯田産業センターにおいて成分分析後に、改良研究して頂き、原料の柿皮エキスの脱色および脱臭の処理実験を成功している。甘味は維持されており、白ワイン風の果実酒が出来上がりそうであるので、引き続き取り組んでゆく。今回のアンケート結果のような嗜好の評価が分かれることはないと期待できる。
- ②村の関連行事やメディアを通じての商品PRにより、地元住民の関心も増している。また近隣町村からの出展依頼も来ている。本事業を通じてPRノウハウを得ることができたので、南信州を代表する新商品として更に広範囲に認知して頂くPR活動を行ってゆく。

【目標・ねらい】

- ①特産品開発において、これから出来る上がる新商品の名称を住民等から応募頂くことで関わり、愛着を持つ。
- ②南信州特産の柿を原料とする果実酒開発に取り組み、100%地元産の新たな特産品として発信でき、地元住民の励みになる。
- ③商品化を通じて地元住民と農業者と商工業者の連携が実現する。

※自己評価【A】

【理由】南信州特産柿の果皮の新たな活用法として、果実酒の完成に至り、多くの皆様に披露できた。各メディアに取り上げて頂き、注目頂けた。(信濃毎日新聞、中日新聞、南信州新聞、SBCラジオ)